ぼいす

北区飛鳥山博物館だより
2020.3.20
44

春期企画展

飛鳥山三百年展

楽しい！だから続く、吉宗がつくった江戸のワンダーランド

会期 3月17日(火)～5月10日(日)
午前10時～午後5時

観覧無料

休館日 5月4日を除く毎週月曜日および5月7日(木)

会場 北区飛鳥山博物館
特別展示室・ホワイエ・講堂

画像：東京名所絵　王子飛鳥山之図

春期企画展

飛鳥山三百年展
楽しい！だから続く、吉宗がつくった江戸のワンダーランド

絵葉書（東京名所）飛鳥山の桜

飛鳥山は上野から北に続く武蔵野台地崖線に位置する地で、ここが江戸の花見の名所となったのは、八代将軍徳川吉宗の桜植樹にさかのぼります。

鷹狩にしばしばこの地を訪れた吉宗は、紀州飛鳥明神とゆかり深い飛鳥山に特別の愛情をもち、享保５年（1720)、桜を270本植え、翌年にはさらに1,000本の桜を加えたほか、楓・松を含んだ修景をほどこしました。そののち、飛鳥山は春のみならず四季折々の景物に富んだ景勝地として、庶民の行楽の場となり、明治６年(1873)には日本で最初の太政官公園のひとつに指定を受け今日に至っています。

徳川吉宗による飛鳥山の開発から今年で300年が経ち、このたび、これを記念して飛鳥山の歴史・文化をご紹介する企画展を開催する運びとなりました。展示を通して、江戸の昔から今に至る飛鳥山の姿を、みなさまとともに見つめなおす機会となれば幸いです。

最後に、本展の開催にあたりまして、ご理解、ご協力を賜りました関係各位に篤く御礼を申し上げます。

協力者一覧（順不同　敬称略）

伊藤　紀之
大岡　富士雄
黒田　清嗣
太田記念美術館
宮内庁書陵部
国立公文書館
国会図書館
公益財団法人　東京都公園協会　緑と水の市民カレッジ
公益財団法人　徳川記念財団
公益財団法人　冷泉家時雨亭文庫
飛鳥山薪能実行委員会

（団扇絵）飛鳥山

VOICE　災害と博物館

1949年（昭和24年）１月26日の早朝に法隆寺の金堂で火災がおき、堂内の貴重な壁画が消失してしまいました。このことがきっかけで文化財保護法が制定され、１月26日は文化財防火デーと定められました。昨年、ノートルダム大聖堂が火災にあい、また、沖縄の首里城も消失してしまいました。火災は一瞬にして貴重な文化財を無にしてしまいます。博物館にも貴重な資料が数多く収蔵、展示されています。博物館の防火対策はどのようになっているのでしょうか。当館の各階には消火器と消火栓があります。火災が起きてもまずは初期消火。そのためにも消防訓練を行っています。また、資料が保管されている収蔵庫はハロン消化設備を設置しています。水で消火すると文書資料などがダメージを受けてしまうので、ガスを使って無酸素状態にして消化をするのです。万全と思っていても何が起きるかわかりません。まずは火災を起こさないことが大切です。災害は火災だけでなく地震もありますが、東日本大震災の時も資料の損壊はごくわずかでした。建物が地面を掘りこんで建てられているので揺れが軽減されたようです。もう一つ最近話題になっているのが水害です。当館は高台にあるので津波や川の増水による浸水は心配ないのですが、近年ゲリラ豪雨や大型台風が思いもよらない被害をもたらしています。当館は収蔵庫が地下にあるので、これから水害対策も考えていかなければなりません。（鈴木）

歴史になった遺跡

大地・水・人

中島 広顕（当館学芸員）

遺跡は地表下に埋蔵された状態で存在するため、内容を明らかにする手段として発掘調査が行われる。西ヶ原貝塚（都史跡）や中里貝塚（国史跡）は早くも明治時代に、昭和時代には清水坂貝塚や飛鳥山遺跡、亀山遺跡などが大学研究者等によって調査された。その調査成果は今日でも学史的な評価を得ているが、それを凌駕する膨大な情報量が昭和時代も終わりから平成時代にかけ、頻発した行政主体の調査によってもたらされた。そこで、今振り返る原始・古代の新たな歴史を書き加えた遺跡を紹介してみたい。

筆頭は、西ヶ原二・三丁目の台地上に立地する七社神社前遺跡をあげたい。発見された縄文時代前期の集落は、推定で径200～250㍍の大規模な環状を呈した拠点的な集落である。環状部分の居住地の内側に位置する広場の一隅には、集合墓地がつくられ、墓穴から副葬された浅鉢形土器が数多く出土した。全国的にも有数の大型集落に数えられる。

次は、田端から赤羽台に続く台地上に連綿と営まれた弥生時代後期の遺跡が特筆される。検出された住居跡の数は優に千数百軒を超え、２世紀頃の爆発的な人口増は計り知りえない。都内では当該期の集落遺跡が最も多く分布する地域といえる。七社神社前遺跡の縄文集落も弥生集落も住宅密集地の地中に眠っていた予想外の新知見であり、調査なくして顕在化することはなかった。

さらに、台地上の集落遺跡ばかりではない。隅田川の自然堤防上に立地する豊島馬場遺跡は、低地開発に進出した古墳時代前期の本格的な集落であった。検出した周溝を持つ遺構は当初、方形周溝墓と考えられたが、住居の一形態として見直され、東京低地の重要な大規模集落と評価された。出土品のガラス小玉鋳型は、全国でも出土数が少なく古い時期に属する。

そして、やはり大取は、御殿前遺跡（区史跡）以外はあり得ない。昭和58年、検出された奈良・平安時代の遺構が武蔵国豊島郡の郡役所である豊島郡衙に比定され、「都内初の郡衙跡」と報道された。その発見は、万に一つの偶然と言わしめ、律令による地方統治の拠点が西ヶ原二丁目一帯に造営されていたことは、史料の少ない古代史と考古学の間隙を埋める研究資料になった。継続調査によって豊島郡衙の郡庁や正倉院などの官衙構造と変遷は具体的に判明し、御殿前遺跡は全国的にも著名な郡衙遺跡となっている。

なお、縄文観を見直す巨大水産加工場の中里貝塚が別格であることに疑う余地はない。

最後に、列記した遺跡は、手前味噌ながら30数年に亘って区内で発掘調査にあたってきた筆者が選んだ思い入れのある遺跡でもある。しかし、史跡に指定された西ヶ原貝塚や中里貝塚の一部を除いて、調査地は調査後に湮滅している。遺跡は現状のまま遺していくことが最善だが、記録保存を目的とする発掘調査は避けられない。その代償として、調査成果の蓄積は新たな地域史の構築を目指すことができる。

豊島郡衙（7世紀末の官衙配置）空撮

秋期企画展　「古写真はわたしたちに何を伝えるのか？ ―写された幕末・明治の北区の名所―」

令和元年10月26日から12月15日を会期として、秋期企画展「古写真はわたしたちに何を伝えるのか？ ―写された幕末・明治の北区の名所―」を開催しました。古写真40点を中心に、写された地域の景物についてご紹介したもので、11,252人の来場者をお迎えしました。

また付帯事業「肖像撮影体験！ 150年前の写真技法で写ってみよう」（和田高広氏・ライト＆プレイス湿板写真館代表）を催し応募者多数のなか、抽選で5組の方々を一日がかりで撮影しました。コロジオン写真でガラス板に映し出された姿をみて、まるで150年前のご先祖さまが現れたようですとおっしゃる参加者もおられ、感慨深げなご様子だったのも印象的なイベントでした。（石倉）

企画展会場風景

企画展付帯事業　撮影の様子

文化財講演会　「赤レンガ棟100周年　歴史的建造物が図書館に生まれかわるとき」

文化財講演会は、毎年秋の東京文化財ウィーク開催期間に合わせて行っている講座です。内容は歴史、民俗学から建築学まで幅広く、その時々で皆様に伝えたい事柄に合わせて様々な講師に講演をお願いしています。

令和元（2019）年11月17日（日）の講演会は、タイトルにあるように北区の中央図書館建設に関する内容でした。

平成20（2008）年に開館した図書館は、「赤レンガ図書館」として親しまれ、多くの方々に利用されています。この「赤レンガ図書館」は大正8（1919）年に造られた東京砲兵工廠銃包製造所の赤レンガの工場棟をリノベーションした建物です。今回は、文化財建造物の保存活用を進める過程の実際を感じていただければとの思いもあり、歴史的建造物の保存や活用について、図書館工事の設計管理を行った佐藤総合計画の当時の担当者に講演をしていただきました。

講演会の内容も、中央図書館が行う100周年事業とリンクさせ、銃包製造所の歴史的背景を図書館の講演会で、リノベーションの過程を博物館の講演会でそれぞれ行うように分担しました。

参加者からは「文化財建造物の保存活用がわかった」との感想も多く寄せられました。「赤レンガ図書館」の新たな一面を知り、文化財建造物の保存の意義などについても考えていただけたかと思います。（山口）

スライドを見ながら説明をする講演会の様子

いにしえからの贈り物 Special

史跡を未来へ伝える
―中里貝塚国史跡指定20周年―

今年９月で、中里貝塚（北区上中里２丁目）は国史跡に指定されて20周年を迎えます。中里貝塚は、縄文時代中期～後期初頭にかけて、当時の海岸線に造られた日本最大の貝塚です。これまでの調査で、干し貝作りのための水産加工場であることが判明し、「縄文時代の生産や社会的分業、社会の仕組みを考える上で重要な遺跡である」として、平成12年（2000）に国史跡に指定され、平成24年（2012）には隣接地が追加指定されています。

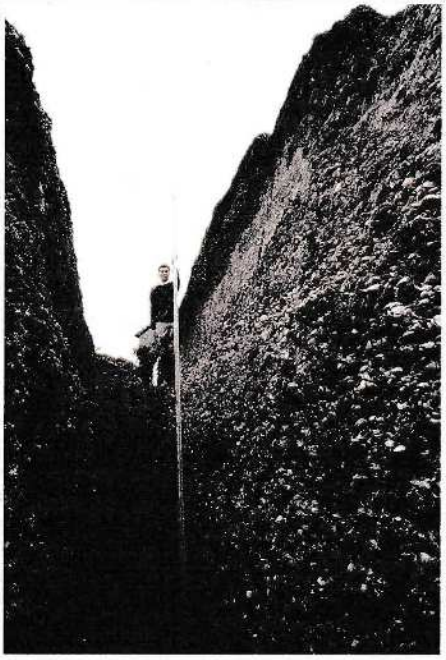
本貝塚は古くから知られた貝塚で、江戸時代の地誌や絵図面にもたびたび登場しています。明治時代中頃までは、夥しい量の貝殻が露出しており、その様子は「誠に雪が降りたるが如し」（江戸志）だったといいます。しかし当時、土器や石器などの人工物が見つからないことや、他の貝塚と違って低地に立地することなどから、貝塚として疑問視する声も多くありました。そんな中里貝塚の性格を決定づけたのは、平成に入ってからの発掘調査でした。

平成８年（1996）発掘調査時の、ハマグリとマガキからなる最大4.5ｍにも及ぶ貝層や貝処理施設の発見が、中里貝塚の解明へとつながりました。特に「木枠付土坑」と名付けられた貝処理施設は、全国唯一の発見例です。実はこの施設は、台風シーズンを迎え何度か風雨にさらされ、作業が中断される中での発見でした。台風が過ぎ去った朝、ふいに顔をのぞかせたものだったのです。

木枠付土坑は、マガキの身を取り出すために、蒸すか茹でるかして貝の口を開けるために使われました。土器を用いるより多量のマガキを一度に処理することができるもので、貝処理作業の効率化に一役買ったことでしょう。現在は都市化が進み、どこを見渡しても海など見当たりません。しかし貝塚が作られた当時は、今より平均気温が高かったことから、この辺りにも穏やかな海が広がっていたのです。縄文人は高台に住まいを構え、シーズンになると浜へと降りてきて、むき身づくりに勤しみました。なおこれらは、干し貝にして遠隔地まで運ばれ、各地に住まう縄文人のくらしを支えたことでしょう。

発掘調査当時、中里貝塚は多くのメディアに取り上げられ、見学会には２日間で3000人もの考古学ファンが押しかけるほどのフィーバーぶりでした。ですが、それから20年が経った今、残念ながら中里貝塚は十分な整備活用が図られていないと言わざるを得ない状況です。そこで、このたび本貝塚の価値を高め、適切に保存・継承し、史跡を活かしたまちづくりを推進していくための保存活用計画を策定することとなりました。その素案づくりには、地域の方々をはじめとする区民の皆様にもご協力いただきました。来る令和２年度には、本計画書をもとに整備基本計画を策定します。みなさまのご意見が、計画策定の大きな力になります。いにしえからの贈り物の未来を、一緒に考えてみませんか。（安武）

貝処理施設のイメージ（復元）


累々と貝殻が積み上がる様子

モノの記憶
—収蔵品が語る物語—

岩淵町南町会旗の謎？

当館の収蔵品に、昨年度、岩淵町会から寄贈された町会旗があります。この町会旗は、濃い紫の地に、右下には白地の布に地の色と同じ濃い紫色で「岩淵町南町会」と町会名が印刷された布が縫い付けられています。中央にはシンボリックな桜形の赤い地に金色で「岩南」と刺繍されたマークが縫い付けられており、そのマークを囲むように桜の花と葉があしらわれています。よくある町会の旗にも見えますが、この旗には謎が隠されていました。

なんと、「岩淵町南町会」と印刷された布をめくってみると、「赤羽東部町会」という町会の名前が印刷されているのです。つまり、この旗はもともと「赤羽東部町会」という名前の町会旗であったものが、町会名の変更にともなってシンボルマークはそのまま「岩淵町南町会」に上書きされたものでした。

この「赤羽東部町会」と「岩淵町南町会」について今回、『北区史』や『岩淵町郷土誌』をはじめ様々な資料を調べても、この二つの町会名に出会うことはできませんでした。こうなると正式な町会名でなく、地域のつながりから成る集まりの旗なのかもしれません。謎は深まるばかりです。力不足で大変お恥ずかしいですが、地域のことは住んでいる方に聞くのが一番！この二つの町会についてご存知の方がいらっしゃれば、お教えいただけますと幸いです。（工藤）

町会旗

めくったところ

写真に見る　あの日 あの時

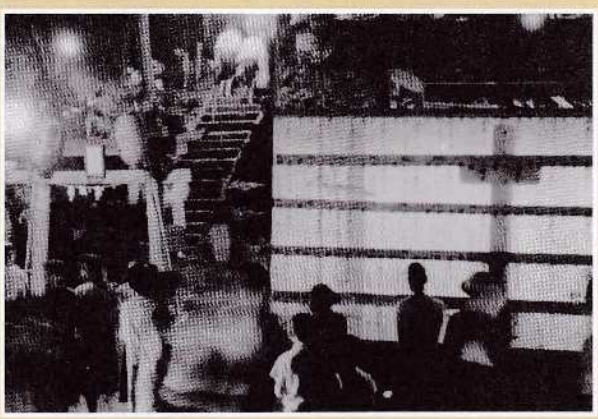
58年前の「お冨士さん」

夜の光景です。電球が明るく輝き、階段を上る割烹着姿の女性や階段の下に集まる人々が照らし出されています。大きな奉納板が立ち、祭礼の夜とわかります。これは、昭和37年に撮影された、十条冨士塚での「お冨士さん」の様子です。中十条２丁目に所在する十条冨士塚では、毎年、富士山の山開きにあたる７月１日とその前夜６月30日に祭礼が行われてきました。地元ではこの祭礼を「お冨士さん」と呼び、多くの屋台も出て、昔も今も多くの人で賑わいます。

階段の上り口に建つ鳥居には、「参元講」と書かれた提灯が立てられています。十条の冨士講、丸参伊藤元講のものです。鳥居の左側には、文字が染め抜かれた布が掛けられています。これは、冨士講の講名や講印を入れたマネキという布です。昭和40年代までは、７月１日に各地の冨士講が冨士塚をめぐり、マネキを交換しあう風習が見られました。

奉納の紙が貼り出され、背後から明るく照らされています。後ろに、冨士講の祭壇を設えた御仮屋が建っているのでしょう。

大人たちに交じって、子どもたちの姿も見えます。階段を見上げる半袖姿の少年。隣に立っているのは妹でしょうか。この日に浴衣をおろす家も多く、子どもたちは、新調した浴衣を着て塚頂上の冨士神社にお参りをし、お楽しみの屋台へくり出します。「お冨士さん」が終わると、本格的な夏のはじまりです。（田中）


倉田 正義氏撮影

学芸員の本棚

『図解 技術の考古学』

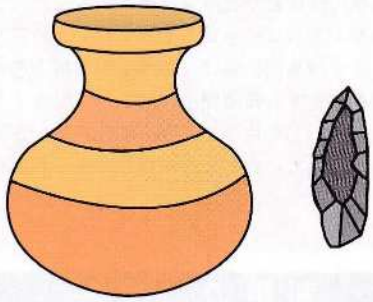
潮見 浩 著 有斐閣 1988年4月刊行

近年の考古学界では、研究テーマが細分化され、その内容は非常に深化されているように思います。それ故、学会での発表内容や、あるいは表題を見ただけでは、とても理解が及ばず、最新の研究にはついていけないと感じさせられることが多くなってきました。

一方で、埋蔵文化財保護行政に携わる立場にあっては、「浅くとも広く」知っておくことが重要であると感じます。北区内には、時代を問わず、また内容的にも様々な遺跡があり、発掘調査を実施するにあったっては、自身の専門性に関わらず対応することが求められますし、実際に初めて手にするような遺物が出土することもあります。

紹介する『図解 技術の考古学』は、ちょうど私が大学で考古学を学び始めた頃の刊行で、当時の広島大学文学部・潮見浩教授によって著されたものです。あとがきによれば、「考古学実習をはじめるにさいして企画したもの」とのことで、考古資料を全般的に扱っており、それらの特徴や製作技法・工程、使用方法等について、初心者にも理解しやすいように、イラストを豊富に用いて解説されています。刊行からすでに30年以上が経ちますが、今でも時折、専門外のものに出くわした時などに、「浅くとも広く」知るべく基本に立ち返ろうと思い、手に取る本のうちの一冊です。

（牛山）



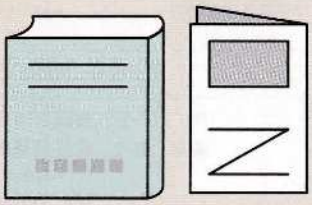
博物館インフォメーション

◆紙の博物館・渋沢史料館が揃ってリニューアル・オープンします

昨年秋から改修工事を行っていた紙の博物館と渋沢史料館が、それぞれ今春リニューアル・オープンします。
紙の博物館は３月17日（火）、渋沢史料館は３月28日（土）から新たな姿をお披露目します。ご期待ください。

◆古くなった刊行物の頒布を中止します

平成10年３月に開館して以来、当館は展示図録をはじめ多数の刊行物を発行し、頒布してきました。しかしながら、一定の年数を経た刊行物は変色等の劣化が著しくなっています。そのため、令和２年４月末日をもって、発行から概ね10年を過ぎた刊行物（平成22年３月以前に発行）の頒布を中止させていただきます。
なお、詳細についてはお問合せください。



◆三館共通券の料金変更のお知らせ

紙の博物館・渋沢史料館のリニューアル・オープンにともない、飛鳥山３つの博物館 三館共通券の料金を下記の通り変更いたします。
なお、販売は３月28日から開始します。
何卒ご理解のほどお願いいたします。
一　般［旧］720円 ⇒［新］800円
小中高［旧］240円 ⇒［新］320円

◆エコな博物館をめざしています

これまで節電のため、館内の一部が暗いなどご不便をおかけしておりましたが、昨年末に主要な照明のLED化が終了しました。
また、ごみの削減にも取り組み、ご来館の皆様にもゴミの持ち帰りにご協力いただいています。
これからも環境に配慮しながら快適な博物館づくりに取り組んでまいりますので、引き続きご協力のほどお願いいたします。

あすかやま 花愛でる心も 三百年

学芸員リレーエッセイ

博物館 いろは歌留多

「桜は好きですか？」

そう尋ねて、「嫌い」と言う方がほとんどいないほど、桜は日本人にとって親しみ深く、花見は毎年春の恒例行事になりました。今から約1200年前、歴史書『日本後紀』には、嵯峨天皇が「花宴の節」を催したとあり、これが日本の花見の起源になったとも伝えられています。当時の花見はまだ天皇や貴族の遊びの一つに過ぎませんでした。

さて、そんな花見が庶民に広がったのはちょうど今から300年前。江戸幕府八代将軍徳川吉宗が浅草や、ここ飛鳥山に桜を植樹したのがきっかけと言われています。当館販売ポストカードに描かれる桜の浮世絵や古写真を見ると人々が大いに花見を楽しみ、桜を愛でる心は今も昔も変わらないようです。

当館があります飛鳥山公園には毎年600本以上の桜が春には見事に花を咲かせます。桜植樹300年という記念すべき今年の春は当館ポストカードを片手に、300年前の人々の心に思いをはせながら、桜を愛でるのもまた面白いかもしれませんね。

（谷口）

利用のご案内

【開館時間】 午前10時から午後5時 ※観覧券の発行は午後4時30分まで

【休 館 日】 毎週月曜日（月曜日が国民の祝日・休日にあたる場合は開館し、直後の平日に振替休館）

年末年始（12月28日～1月4日）

※このほかに臨時休館日があります。

【常設展観覧料】 ※三館共通券は3/28から料金改定

	個人	団体	三館共通券※
一　般	300円	240円	800円
高齢者（65歳以上）	150円★		
小・中・高	100円	80円	320円

・小学生未満は無料
・団体扱いは20名以上
・障害者手帳をご提示いただいた場合は、当館の一般券が半額となります。
（障害のある方一人につき、介助者一人まで観覧料が免除となります。）
・三館共通券は当館のほか、紙の博物館・渋沢史料館をご覧になれます。
★年齢が確認できる証明書をご提示ください。

交通のご案内

[JR京浜東北線]	王子駅南口より	徒歩5分
[東京メトロ南北線]	西ケ原駅より	徒歩7分
[東京さくらトラム（都電荒川線）]	飛鳥山停留場より	徒歩4分
[都バス（草64・王40系統）]	飛鳥山停留所より	徒歩5分
[Kバス（北区コミュニティバス）]	飛鳥山公園停留所より	徒歩3分

※飛鳥山公園に隣接して有料駐車場がございます。

編集後記

年明けから世の中は新型肺炎など不安な出来事に大きく揺れ動いていますが、飛鳥山の桜は今年も変わらず美しく咲いてくれるでしょう。時代を超えて残ってきた飛鳥山の力を借りて、当館も皆さまに長く親しまれる館であり続けたいと願っています。（久保埜）

令和２年度 上半期の催し物予定

春 3～6月

〈展 示〉

◆春期企画展「飛鳥山300年展 ― 楽しい！ だから続く 吉宗が作った江戸のワンダーランド ―」 (3/17～5/10)
◆〈回想のための〉テーマ展示「オボエテマスカ？ー懐かしの暮らしと道具―」 (3/14～6/14)
◆スポット展示「ASUKAYAMAセレクション5★2020★」 (5/23～6/21)

〈講 座〉

◆ビミョーなところがわかる！『江戸名所花暦』 (4/19)
◆北区文化財めぐり ― 西ヶ原編 ― (4/26)
― 王子編 ― (5/31)
◆ヘンタイ仮名くらぶ (5/10)
◆対話型鑑賞のすゝめ〈初級編〉 (5/17)
◆北区遺跡学講座 2020春「志茂遺跡・熊野神社遺跡」 (5/23)
◆考古楽講座〈中級編〉考古学を学ぶ ― 衣の考古学 ― (6/7)
◆92年前 五輪を目指した区民がいた！ (6/14)
◆北区ジュニア考古学クラブ 遺跡を歩こう2020 (6/21・6/28)
◆「お富士さん」直前！北区と近郊富士塚めぐり (6/26)
◆明治時代のハローワークへようこそ！ (6/27)

夏 7～9月

〈展 示〉

◆夏休みわくわく展示「数字のふしぎ」 (7/21～8/30)
◆特別展覧会「第19回 人間国宝奥山峰石と北区の工芸作家展」 (9月中旬～10月中旬)

〈イベント〉

◆夏休みわくわくミュージアム☆2020 (7/21～8/30)
・夏休み勾玉づくり教室、和のデザインで団扇づくり、博物館探検隊、など

〈講 座〉

◆ハッキリ言ってむづかしい！ 中世武士団豊島氏 (7/12)
◆第36回 新聞から読む考古学 ― 2020年上半期を振り返る ―」(7/19)
◆こんにちは赤ちゃん体験講座「アーユーレディ？ 博物館でお産準備 ― 夏 ―」 (7/23)
◆ヴィジュアルでわかる！浮世絵で知る北区の魅力 (8/23)
◆考古楽講座〈中級編〉考古学を学ぶ ― 貝の話 ― (8/30)
◆考古楽講座〈上級編〉考古学の世界 (9/5)
◆渋沢栄一と帰一協会 (9/6)
◆北区古代史教養講座シリーズ①「北区と古代史」 (9/13)
◆対話型鑑賞のすゝめ〈中級編〉 (9/27)

※催し物は仮称のものも含みます。（ ）内の実施日は予定です。
詳細は当館発行の催し物案内や北区ニュース、ホームページをご覧ください。

臨時休館のお知らせ

収蔵資料を虫害やカビから守る燻蒸（くんじょう／殺虫・殺菌処理）にともない、7月7日（火）から7月10日（金）まで臨時休館とさせていただく予定です。何卒ご理解のほど、よろしくお願いいたします。

北区飛鳥山博物館だより　ぼいす44

［発 行 日］令和２年３月20日
［編集・発行］北区飛鳥山博物館
〒114-0002 東京都北区王子1-1-3
TEL. 03-3916-1133
［印　　刷］川口印刷工業株式会社

刊行物登録番号31-2-140